

製品名: 前立腺特異膜抗原ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe87601**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF, FC, IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000, ICC/IF 1:20-1:50, FC 1:20-1:50, IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW:84 kDa; Observed MW:100 kDa

抗原情報

遺伝子名	Prostate Specific Membrane Antigen
別名	PSM; FGCP; FOLH; GCP2; PSMA; mGCP; GCPII; NAALAD1; NAALAdase
遺伝子 ID	2346
SwissProt ID	Q04609
免疫原	ヒト前立腺特異膜抗原の合成ペプチド

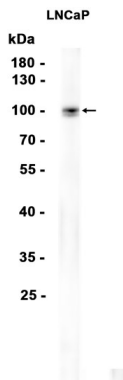
背景

この遺伝子は、M28 ペプチダーゼファミリーに属するII型膜貫通糖タンパク質をコードしています。このタンパク質は、栄養素であ

る葉酸や神経ペプチドである N-アセチル-L-アスパルチル-L-グルタミン酸など、様々な基質に対してグルタミン酸カルボキシペプチダーゼとして作用し、前立腺、中枢神経系、末梢神経系、腎臓など多くの組織で発現しています。この遺伝子の変異は、食事性葉酸の腸管吸収障害と関連している可能性があり、その結果、血中葉酸濃度が低下し、高ホモシステイン血症を発症します。脳におけるこのタンパク質の発現は、グルタミン酸興奮毒性に関連する多くの病態に関与している可能性があります。前立腺では、このタンパク質は癌細胞で発現が亢進しており、前立腺癌の有効な診断および予後指標として用いられています。この遺伝子は、近傍の染色体領域の重複によって生じたものと考えられます。選択的スプライシングにより、複数の異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物変異体が生じる。[RefSeq 提供、2010年7月]

研究分野

画像データ



前立腺特異膜抗原ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した LNCaP 細胞抽出物のウエスタンブロット分析。